

伸び悩む道内開業率 全国33位



北海道エンブリッジがモリタで実施したインターン。札幌市立大の学生(右)がウェブショップのデザインを手がけた

厚生労働省によると、2015年度の開業率の全国平均は5.2%にとどまり、英国(14.3%)など欧米主要国を11年度から下回り続けている。経済産業省は若者の安定志向の強さや、起業への関心の薄さなどが背景にあるとみている。

道内の15年度の開業率は4.2%と都道府県別で33位。首位の沖縄県(7.0%)や

起業インターンで後押し

起業した会社が全業に占める割合を示す「開業率」が伸び悩んでいる。道内も低迷しており、NPO法人がインターンシップ(就業体験)を実施するなどして起業の機運を高めている。ただ、北海道を離れて市場が活発な首都圏で起業するケースも多く、関係者からは道内での相談態勢の充実などを求める声がかかる。

(石井努)

相談態勢、行政の支援課題

型とは異なり、学生に新規事業を任せるなど実践的なプログラムを設け、起業家になり得る人材の育成にもらむ。

紙製製造のモリタ(札幌)は約2年前からエンブリッジに紹介された学生を受け入れている。今年2月まで半年間受け入れた札幌市立大の学生には、新規で立ち上げたウェブショップのデザインを任せ、エンブリッジのメンバーがサポートし、事業を軌道に乗せる面白さを味わってもらった。

政府は17年度、起業に関心を持たせる活動に取り組む個人や団体をたたえる「創業機運醸成賞」を新設。エンブリッジの浜中裕代表理事(33)や、小樽商大グローバル戦略推進センターを表彰した。浜中さんは「道内では農業や林業など特有の資源を生かした起業が可能はず。起業に関心を持ってもらえるプログラムを今後も企画したい」と話す。

ただ道内でインターンシップを経験しても、首都圏で起業するケースが少なくない。IT企業の技術者をつくる民間団体で、IT起業家の育成などを目的に子供向けプログラミング講習会を開く「POC N札幌」の吉田博紀代表(38)は「今は札幌より東京に優秀な学生が流れている」と指摘。福岡市が起業の手続きから従業員確保までを支援するカフェを設けていることを念頭に、「道内でも起業を目指す人が気軽に立ち寄れる事業計画の助言を受けられる場をつくるなど行政の助けが必要」と話している。

札幌市民交流プラザの初代館長

いし まさはる
石井 正治さん



10月に開館する札幌市の文化関連複合施設「札幌市民交流プラザ」(中央区北1西1)。運営する市芸術文化財団の開設備室長を経て1日、初代館長に就任した。オープンまで半年に迫り「都心部という立地条件を生かし、文化芸術にあまり関心がなかった人も気軽に楽しめる場所にしたい」と意気込む。

本格的なオペラやバレエの上演が可能な「札幌文化芸術劇場」、大小のスタジオを備えた「札幌文化芸術交流センター」、

ひと
2018

専門書を充実させた「札幌市図書・情報館」などが入る。「施設全体の責任者」として、市教委直轄の図書・情報館も含め、有機的に連携できるように目を配る」と語る。

特に力を入れたいと考えているのが、文化芸術に関する相談業務。「例えば、町内会活動を活性化したいという人には、住民を笑顔にできる文化芸術関係のパートナーを紹介できる。目指すはよろず相談所。まずは相談に来てほしい」

札幌市職員(部長職)で、昨年4月から財団に派遣されている。市では議会事務局や広報課、まちづくりセンターなどさまざまな部署を経験した。初開催だった2014年の札幌国際芸術祭を担当課長として仕切ったことで、文化芸術分野と縁ができた。

「新しいものを生み出すという、文化芸術の力にあらためて気付いた。さまざまな人との出会いが財産」。小樽商大卒。札幌出身の49歳。

(石井努)